

安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

【目次】

- ❖ 新日鐵(株)共同研究プロジェクト
- ❖ (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究の活動報告
- ❖ 本センターと協定を結ぶ(株)IHI 検査計測がJOGMEC 公募研究を受託
- ❖ センターの活動紹介 (韓国視察団対応, セミナー, 朝日新聞の取材)
- ❖ 編集後記

第13号



新日鐵(株)共同研究プロジェクト

「公共鋼構造物の損傷リスクマネジメントと予防保全に関する研究」の活動報告

昨年度に引き続き、新日鐵(株)共同研究プロジェクト「公共鋼構造物の損傷リスクマネジメントと予防保全に関する研究」を工学研究院、慶応義塾大学などと実施しております。

本研究プロジェクトでは、劣化することが避けられない鋼構造物の効率的な予防保全と延命化・長寿化技術を実効あるものとして広く確立するため

に、単なる工学技術的な取り組みだけでなく、公共事業の予算制度や自治体財政における維持管理コストの位置づけ、などの社会的枠組みに関する視点からも取り組み、工学技術的検討と社会科学的な調査・研究を一体化した文理融合型の研究開発を行っております。

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究

「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討－ 底板コーティングの余寿命評価法と風荷重に対する浮屋根強度信頼性評価システムの開発 －」の活動報告

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討－ 底板コーティングの余寿命評価法と風荷重に対する浮屋根強度信頼性評価システムの開発 －」に採択され、関根和喜特任教授を代表として、我が国にとって重要な資源である石油を安心・安全に備蓄するための調査・研究を6月24日より行なっています。基礎から応用、実用にも及ぶ幅広い領域が対象となるため、本センターを中心に、学内の複数部局や包括連携先で

ある IHI 株式会社等が連携して課題に取り組んでいます。本研究は、昨年度の教育研究高度化経費「安心・安全科学研究教育拠点としてのセンター機能の維持・強化と研究・教育プロジェクトの推進・企画」で、全学各部局の先生方の参画を得て、「安心・安全」に関する幅広い情報収集とそれらを活用した研究プロジェクトを企画した成果の一つでもあります。年度末には、報告書としてその成果をまとめる予定であり、現在、その準備を着々と進めています。

本センターと連携協定を結ぶ(株)IHI検査計測がJOGMEC公募研究を受託！！

「平成21年度開放検査の合理化に関する調査(コーティング上からの溶接線検査)(荒川敬弘統括実施代表者)」を本センターの包括提携先である、IHI検査計測)が受託しました。本センターでは、

笠井尚哉准教授が上記研究プロジェクトに参画するとともに、関根和喜特任教授を主査とした「研究プロジェクト評価委員会」を実施しております。

センターの活動紹介

韓国から実験室安全衛生の視察団が訪問

12月7日(月)、韓国の文部科学省にあたる教育科学技術部の事務官とソウル大学を始めとする大学教授など計10名が、日本の大学の実験室の安全管理について視察のため本学に来学し、情報交流会を行いました。当日は三宅淳巳教授(環境情報研究院)、

藤江センター長の挨拶の後、鈴木技術専門職員が本学の労働安全衛生管理体制と実験室の安全管理について説明しました。また、環境情報研究院の三宅研究室、岡研究室にご協力いただき、実験室の薬品管理をはじめとする安全管理の実態の見学が行われました。

公開セミナー等の実施報告

安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 「CO₂の削減へむけて - COP15 への対応 -」

9月25日(金)、工学部講義棟C201において、公開セミナー「CO₂の削減へむけて - COP15 への対応 -」を実施しました。東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)・湯原哲夫特任教授から「2020年削減目標」について、本学の有信睦弘理事から「技術者団体の国際的な動向と日本機械学会の対応」について講演がありました。また、総合討論では参加者を含めて活発な意見交換が行われました。学内外から60名の方にご参加いただき、当センターの公開セミナーや教育活動に期待の声が多く聞かれました。



安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 「大学等の環境・安全衛生管理のあり方」-環境・安全衛生管理責任を支援する安全衛生管理室の課題-



1月28日(木)、教育文化ホール中集会室において、公開セミナー「大学等の環境・安全衛生管理のあり方 - 環境・安全衛生管理責任を支援する安全衛生管理室の課題 -」を実施しました。本学理事

(総括安全衛生管理者)の竹下典行事務局長の開催挨拶の後、東京大学環境安全本部企画調整部長・小山富士雄特任教授から「東京大学における安全衛生管理・これまでの取組みと課題」、名古屋工業大学安全管理室・箕浦寿樹サブチームリーダーから「安全なキャンパスの実現に向けて・名古屋工業大学における環境・安全衛生管理の変遷と課題」についてご講演いただきました。学内外から36名の方にご参加いただき、総合討論では参加者も含めて活発な意見交換が行われました。

安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 「化学物質リスクの評価と情報基盤」

2月22日(月)、教育文化ホール大集会室において、公開セミナー「化学物質リスクの評価と情報基盤」を実施しました。本学の鈴木邦雄学長の開催挨拶、製品評価技術基盤機構の安井至理事長の挨拶の後、製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター・村田麻里子主査から「化審法におけるリスク評価」について、産業技術総合研究所 リスク評価戦略グループ・内藤航研究員から「産総研における化学物質のリスク評価研究」について、本学環境情報研究院・三宅淳巳教授から「事業者の化学物質リスク



自主管理のための情報基盤のプロジェクト概要」について、本学環境情報研究院・本藤祐樹准教授から「ライフサイクルに亘るリスクの評価事例」についてご講演いただきました。学内外から178名の方にご参加いただきました。



長崎大学で「実験室の安全衛生問題討論会」を実施

主催：当センター、長崎大学工学部安全工学教育センター、協賛：長崎大学工学部教育研究支援部

1月19日(火)、当センターと長崎大学工学部との間における教育研究事業交流協定(平成21年9月16日締結)の活動の一環で、長崎大学教職員を対象に「実験室の安全衛生問題討論会」を実施しました。長崎大学工学部安全工学教育センター長・高橋和雄教授から挨拶と協定の説明の後、同センター・古川博志技術専門職員が「安全衛生委員会の活動と支援業務」について、当センター・鈴木雄二技術専門職員が「研究教育支援と安全管理実務でのリスクアセスメント」について発表し、総合討論で活発な討議が行われました。長崎大学の教員、技術職員など24名の方にご参加いただきました。

朝日新聞の記者が取材で来室

2月19日(金)、朝日新聞の記者が自動車のリコール問題についての取材のため来室し、小林英男客員教授、澁谷忠弘准教授(環境情報研究院、併任)が対応しました。リコール認識の日米の差やトラブル対応についての見解が、朝日新聞(2010年2月25日、朝刊)に掲載されました。



編集後記

- ❖今年度中に13号が間に合って良かったです。(か)
- ❖セミナーに多数のご参加、有難うございました。(す)
- ❖200名規模の公開セミナーは初体験。出席の皆様に感謝感謝です。(な)

安心・安全の科学研究教育センターニュース
第13号 2010年2月26日発行
国立大学法人 横浜国立大学
安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
TEL: 045-339-3776
FAX: 045-339-4294
URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>
E-MAIL: anshin@ynu.ac.jp